

## 第14回 身体障害者安全運転競技大会

11月3日(日)、城西福祉会で、第14回身体障害者安全運転競技大会が開催され、名身の会員を含め19名の方が参加しました。

柴田理事長からの冒頭の挨拶では、「今年は愛知県内の交通死亡事故全国ワースト1を返上したい。しかしながら現在の所、全国ワースト3位。まだ2ヶ月あるので引き続き安全運転に心がけてほしい。競技大会に参加されている皆さんは、今日学んだ事は、ぜひとも普段の運転にいかして頂きたい。」という言葉がありました。

今大会は午前に学科と北署交通課長さんからの講和、午後に実技という日程でした。学科試験では、何度も受けている方も多く、以前に出題された問題はすらすらと解けている印象でした。しかしながら、実際に運転する場面と法律での取り締まりのギャップがあり、教官に何度も確認や質問されている方がいました。

北警察署の交通課長さんからは、年末年始事故が多くなる時期が近づいており、3つのお願いがありました。①速度をおさえる。②車間距離をとる。③横断歩道を見たら歩行者がいなくても徐行する。最近、日が落ちるのも早くなり夕方16時～18時が1番事故の多発する時間帯になるので注意が必要とのことです。

午後からは河川敷で運転技能コンテストが行われました。今回、8の字からS字カーブに苦戦する参加者が続出しました。参加者からは「道幅も狭くて、何度も脱輪してしまっただ。」  
「途中で車を一旦停めて、座席の高さ、ミラーの位置を再度確認した。」とお話いただきました。左タイヤ前後をタイヤの幅ほどしかない四角の枠に停めるという新エリアが追加されました。停める時に目視確認が出来ない為、参加者は徐行をしながら慎重に停めていました。

最後に柴田理事長より、「来年も続けて行きたいと思っています。皆さんと元気な姿でお会い出来る事を楽しみにしています。」とお言葉を頂きました。来年も5月と10月に開催を予定しています。皆さんも日頃の運転技術を発揮してみたいはかがでしょうか。



開会の挨拶をする柴田理事長



みんなで集合写真



慎重に四角の枠に停める様子